

『何が私の動機か？』

2019.10.28. (新約聖書：第一テサロニケ 2 章 1 節～6 節)

「テサロニケ第一 2 章」を始めます。1 節から 6 節です。まだご覧になっていない方は、その箇所をご覧ください。出来ればお立ちになって、私が読む箇所をついて来てください。ご無理な方は、座ったままで結構です。使徒パウロが、聖霊によって、大変興味深い手紙を書いています。彼は、テサロニケのクリスチャン達宛に手紙を続けています。1 節から。

テサロニケ人への手紙第一 2 章

1 兄弟たち。あなたがた自身を知っているとおり、私たちがあなたがたのところに行ったことは、無駄になりませんでした。

2 それどころか、ご存じのように、私たちは先にピリピで苦しみにあい、辱めを受けていたのですが、私たちの神によって勇気づけられて、激しい苦闘のうちにも神の福音をあなたがたに語りました。

3 私たちの勧めは、誤りから出ているものでも、不純な心から出ているものでもなく、だましごとでもありません。

4 むしろ私たちは、神に認められて福音を委ねられた者ですから、それにふさわしく、人を喜ばせるのではなく、私たちの心をお調べになる神に喜んでいただくとして、語っているのです。

5 あなたがたを知っているとおり、私たちは今まで、へつらいのことばを用いたり、貪りの口実を設けたりしたことはありません。神がそのことの証人です。

6 また私たちは、あなたがたからも、ほかの人たちからも、(キリストの使徒として)

人からの栄誉は求めませんでした。

わお〜ちょっと強烈ですよ？共に祈りましょう。私たちが理解できるよう神に祝福をお願いしましょう。

愛する天のお父様。この時間、どうか私たちの心を整え、思考を沈めて下さいますように。そうすれば、私たちは御言葉と、あなたが今日私たちにご用意下さる御言葉の中にある物に、集中し、専念することが出来るのです。主よ。私たちはこれをお願いします。あなたが私たちの人生に語り掛けてくださる事を。御霊が私たちへ、諸教会へ語る事に、私たちが聞く耳を持てますように。

イエスの御名によって祈ります。アーメン。アーメン。

お座りください。ありがとうございます。今日お話ししたいのは、私たちのやる気・動機についてです。具体的に言うと、『私たちをやる気にさせるものは何か？』言わば、私たちの心の動機です。私は、皆さんに対してまず認めることから始めなければなりません。今日の聖句は、個人的に私の為であり、特に牧師として、何よりもまず牧師としてですが、大変厳しく、罪を諭されるものです。その理由は、パウロは、彼の心の動機に疑問を抱いていた人々からの複数の虚偽の告発と思われるものに対し、自己弁護をしています。これらの虚偽の告発は、こういったものでした。「パウロは彼自身の栄光を求めている。」「パウロはお金の為にしているのだ。」「パウロは皆を騙している。」「パウロは人のごきげんとりだ。」「パウロは信頼できない。」パウロが彼らに書いている事を読めば、そう推察し、推論することができます。と言うのも、パウロは彼らに言わなければならなかったのです。「私は、告発されているように、あなたがたを騙そうとしているのではない！」「告発されているように、自分の欲や、

お金の為にやっているのではない！」「告発されているように、私自身の為や、私自身の栄誉の為にやっているのではない！」これは、聖書の中で、なぜそれが聖書に含まれているのかを、私たちが理解することが重要な箇所の一つです。時おり、自分自身にその質問をするのは良い事だと思います。なぜ神は、筆者を感化して聖書の中に含めさせるほどに、これを重要だとお考えになったのか？私が思うに、なぜ聖書にこれが含まれているのかということに対する答えは、説教台にいようと、信徒席にいようと、私たちが、これに関して、いくつかの真剣な質問を自身に聞く為です。なぜ私は、私がしていることをしているのか、というような質問です。私のクリスチャン生活やミニストリーで、何が自分の動機なのか、という意味で。私が何をするかということや、私がどのようにそれをするのかということは、あまり重要ではなく、本当に重要なのは、私がそれをする理由です。なぜこれをするのか？そのような問いは二つあり、パウロは、彼の本当の動機に関して回答しています。私たちは、自分自身に、同じ質問をするのがいいと思います。最初の質問は、1節から3節にあります。『私は、自分の益になるものによって、動機づけられているのか？』それが私の心の動機か？私にとって何の益があるのか？何年も前の事ですが、ある人が、誰もがWIFMにチャンネルに合わせていると言っているのを聞きました。そういう放送局を聞かれたことありますか？WIFMとは、What's in It For Me（私には何の利益があるのか？）誰もかれも、この4文字が顔中に書いてあります。私にはどんな利益があるのか？これは確かに、牧師に当てはまることですが、皆さんもそう簡単には逃れられないですよ。「不幸な人間は他人の不幸を願う」から。私が罪を認めさせられるなら、皆さんも私同様に罪を認めさせられてもらいたいです。もちろん愛情を込めてです。そして、

私が皆さんのことを言っているのではないのをご理解ください。私が皆さんをどう思っていて、教会として皆さんをどれほど愛しているか、ご存知だと思います。ここは素晴らしい教会ですから。しかし時々、訪問される方が来られます。ボディランゲージはとても明白です。こんな感じです。(偉そうに腕を組みながら)「いいだろう。」

「私を祝福してくれ。」マジですか?! 賛美中にそれに気付くのです。再度言っておきますが、私は、皆さんについて言っているのではありませんよ。本当に注意しないとなりませんね。特にどっちの方向を見るか。そうじゃないと、誰かが…「あ〜。牧師は私の事を言っている!!」「だって私、賛美中に手を組んだから!」そうではありません。しかし、手を挙げる代わりに、腕を組んでいる。賛美中に。「ああ賛美って、あなたを祝福することになっているのですか?」「あなたにお知らせがありますよ。」「あなたは重要じゃない。」私たちが歌うあの歌がありますよね? 私はあれが大好きです。それが真実だったらいいのに。私たちが歌う歌、「it's all about You (あなたが全て) ♪〜」「Jesus (イエス様) ♪〜」「嘘つき〜〜〜!!!」「イエスが全てではなく、自分が全てのくせに!!」信徒席に腰かけて、こんな態度を取る。「今日の賛美はあんまり俺の気にいらなかった!」「そんなの問題じゃないですね。賛美は今日あなたの為ではなく、神に捧げたものだから。」いいですか。毎週、この説教台の後ろに立つのは私の特権なのですが、私がここに立つ時、私はいつもこういう態度でそうするのです。これをどう表現するか、注意しないといけませんね。私は常に、自分の態度が正しいことを確認する必要があります。自分の動機も正しいことを。これについては後ほど詳しく説明しますが、私は、「あなたたちは私の為にここにいるのだ」という態度でここに立つことはできません。また皆さんも、反対にこの態度を

とるべきではありません。「私はあなたの為にここに来ているのだ」本当のところ、私の聴衆は一人です。言われている通り。そのたった一人の聴衆が誰かご存知ですね。一日が終わって、日曜日の午後、私は帰宅の途につくと、22分の運転中に、主と私は対話します。その22分の中に、私がいつも主に尋ねることの一つは、「主よ。御前であなたを、喜ばせることができたでしょうか？」これを言う時に、誤解してほしくないのが、皆さんがこの説教についてどう思うかは、本当は関係ありません。神がこの説教をどう思われるか？それだけが重要です。神が喜び、皆さんがそうでないなら、すみません。この聖句について、私が悲しいのは、パウロは、彼が自分の利益のためにやっているのだというこれらの虚偽の告発に対して自己弁護することを余儀なくされた事です。そして、これらの非難は、パウロの人格に関する信頼性を傷つける為だけの目的だったのです。なぜなら、パウロの人格に関する信頼性を傷つけることができれば、それによって、彼のミニストリーの信頼性も傷つけることができるからです。そして、そうなれば、福音のメッセージも信頼性を失うのです。私が興味深いと思うのは、私が虚偽の告発を受けるときはいつでも、告発者は通常、彼らが私を偽って非難している事を自分たちがしているのです。ユダヤ人たちは、騒ぎを起こしていたと信じられています。彼らは、パウロに対して、これらの虚偽の告発を突き付けていました。パウロに敵対して。だから、パウロは彼自身を守らなければならないのです。私たちは神に守っていただくと良い時もありますが、でも別の時には、私たちが福音を守ることが本当に大切な時があります。通常は、それがリトマス試験になります。これはパウロが、個人的に彼自身を守っているわけではありません。彼は、ここで何が危険なのか知っている為、福音を、メッセージを守っているのです。ですか

ら彼は、言わば、証拠を提示することで自分を弁護しています。彼の証拠は、証拠 A；彼の苦しみ。それが彼の証拠です。別の言い方をすれば、「もしも彼が、そこから得られるもののためにやっているのだったら、確かに、彼はやり続けていなかったでしょう。それが原因で苦しむことを意味するのなら。」皆さん、それが分かりますか？ここに、信じられないほどの虚偽の告発をされているパウロがいます。彼らは、パウロがお金の為に行っていると言っています。パウロは、「冗談でしょ?!」「私が自分の為に行っているですって？ああ、私は、これに署名したのです。そのリストは、苦しみ、難破船、暴行、そして投獄のため。」リストはまだまだ続きます。どうか、聞いてください。木曜日の夜、「箴言」を学んでいます。皆さんの幾人かはお存知ですね。それは素晴らしい学びだと言っておきます。「箴言」の中で繰り返し登場するテーマの一つは、口に出すこと、発言には、注意するべきである、です。「ことは数が多いところには、そむきの罪がつきもの。」その箴言は、私の為に行かれたのです。皆さん、言えば言うほど、間違っただけを言う可能性があります。私は、口に出す前に、本当に良く考える必要があります。個人的には、私がミニストリーに入ったのは、人気者になりたかったからでもなく、友人がほしかったからでもなく、もっとお金を稼ぎたかったからでもありません。実際は、正反対。本当です。これらの虚偽の告発者たちの露骨さ。パウロに対して、虚偽の告発で訴えています。パウロがまるでこう言っているみたいです。「あなたがたは、私がミニストリーをしていて、私がこれらすべてのことをしているのは、自分の利益の為だと思うのですか？」「私の生活を見たことがありますか？私の履歴書を見たいですか？」「かなり強烈ですよ。」「あなたがたが考えるような物ではない。」他の人ならともかく、パウロは自らのことを気に

かけたことはなかった。パウロが気にかける唯一の事は、イエス・キリストの福音と、イエス・キリストの教会。彼は、特にこの教会を、猛然と守ろうとしました。この事が、4節から6節の2つ目の質問に繋がります。1つ目の質問と関連していますが、これが質問です。『私は、人を喜ばせることが動機なのか？』注目すべきなのは、この6節の中で、2回以上、パウロがはっきりとした言葉遣いで明確にしているのが、彼は、人々を喜ばせようとしているわけではなく、人々の賞賛を欲しているわけでもない事です。急いで付け加えると、これは決して、パウロが人々のことを気にかけることがなかったという意味ではありません。本当は、その正反対です。先読みして、先を行く人、この先の事をご存知ですよ。このあとの本文には…まさに牧師に罪を認めさせるとはこのことです。私は自分自身に尋ねないとなりません。「パウロが人々を愛したように、私は皆さんを愛しているのか？」と。これが、彼が話す事です。この後の本文で。実はもう一つ、ここから生じる質問があって、こんにちの教会における相違、あるいは食い違いとも言うものに関係します。これを説明させてください。実際、木曜日の夜の「箴言」の学びの時に、私たちは、これについて話しましたが、私にとって、「教会」を考える時、私は今、広い意味で、一般的な教会、つまり教会全体のことを言っています。特に、こんにちのアメリカ合衆国内の。こんにちの教会を、パウロの時代の初代教会と比べて考えます。皆さんに言わなければならないのは、かなりの相違がある事です。差異です。そして、私たちは、教会として、とても遠くまで離れて来てしまったようにも思えます。再度言いますが、一般的に話しています。初期の教会のあり方から。皆さん、私は、ただ皆さんに、率直でオープンにならなければなりません。これが、私を本当に咎めます。私が当時の教会と、現代の教会を比べる

時、スーパースターの牧師たちがいるからです。メガ教会（巨大教会）があるからです。間違っただけではありませんよ。神が増やして、神だけがお出来になる方法で、日々数を増やし、教会を成長させておられるなら。でもそれはまるで、イエスのことが中心じゃないようで。私たちは、「ヨハネの黙示録 3 章」の、7 つ目の教会宛の 7 つ目の手紙を見ればわかることだと思います。ラオデキアの教会。この教会にはもう、イエスが中におられません。イエスが戸の外に立って、叩いて（ノックして）おられるのです。「私は、中に入っていいですか？戻ってもいいですか？」と。

「わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」（黙示録 3：20）

ここは生ぬるい教会で、イエスが仰っているのは、「あなたがたにはうんざりする。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。」

「そのように、あなたは生ぬるく、熱くも冷たくもないので、わたしは口からあなたを吐き出す。」（黙示録 3：16）

神の義の「重りなわ（下げ振り）」で測られる時、「下げ振り」とは何ですか？「下げ振り」とは、紐で吊るされた重りて、垂直を計測するために使われます。構造構築が真っ直ぐで、中央にあることを確認するための物です。それが 測定機器、ゲージであり、「下げ振り/重りなわ」です。全てのものがそれによって測定されます。私たちは聖書の中で、この神の「下げ振り」が私たちのクリスチャン生活のあらゆる側面に関連する義の測定であるのが分かります。また確かに、教会のあらゆる側面でもそうです。イザヤが語っている事に耳を傾けてください。イザヤ書 28 章 17 節、

「わたしは公正を、測り縄とし、義を、重りとする。

(神がそれをなさる時は、好ましくありません。)

電はまやかしの避け所を一掃し、水は隠れ家を押し流す。」(イザヤ 28:17)

言い換えると神は、神の完全な義の基準で、この義の「測り縄」を使われるのです。

この辺に私の人生や、皆さんの人生があり、教会やミニストリーがあり、その「測り縄/下げ振り」を基準に、計測されます。こんな風に。(曲がりくねりながら)相違。

差異。まっすぐではない。預言者アモスは、アモス書 7 章 7 節~8 節で言います。

「主は私に示された。...見よ。主は下げ振りを手に持って、下げ振りを使って築かれた城壁の上に立っておられた。」(アモス 7:7)

「主は私に言われた。『アモス。何をみているのか。』私が『下げ振りです。』と言うと、主は私に言われた。『見よ。わたしは下げ振りを、わたしの民イスラエルの真ん中に垂れ下げる。わたしはもう二度と彼らを見過ごさない。』」(アモス 7:8)

私の書棚に、スタンリー・ボークという人が書いた本があります。彼は今、主と共にいます。私は何年も前のことですが、90 年代前半に、彼に会うという特権に与りました。彼は、私が参加していたカンファレンスのスピーカーの 1 人だったのです。

そして、彼は多くの著書がありますが、これは特別な本です。私の書棚の大切な第一級の作品です。しょっちゅう読むのですが、最近再度読み直しました。題名は

『Personal Revival(個人的リバイバル)』彼は、この「下げ振り」について書いています。彼が言っている事に耳を傾けてください。「私たちは、神が私たちの人生の城壁に立っておられるのを見る。あらゆる面をご覧になりながら、神が、私たちに対して、「下げ振り」を持たれると物事が完全に、まっすぐではない箇所が明らかになるのだ。人生のあらゆる部分が触れられる。例えば、「下げ振り」が私たちの動機の深

い所に入っていくと、私たちが主の栄光のために全てをしているのか、それとも人を喜ばせているのかが試されるのだ。だから、神は、「下げ振り」を持って、私たちの心を調べておられる。私たちが裁きや絶望に駆り立てる為ではなく、悔い改めへと、優しく惹きつけるためだ。神の腕の中で、私たちが、赦しと、神の愛の豊かさを知るように。」それから彼は次のように言います。私はここが大好きです。「神は、私たちが神から隠れることを望んでおられるのではなく、神の中に隠れることを望まれているのだ。キリストの義の中に。」お聞きください。こんな風になります。ここに神の「下げ振り」があります。私たちは、私たちが行なうすべてのことをそこに持って来ます。私たちのクリスチャン生活、私たちのクリスチャンミニストリー、主への奉仕、私たちがする全ての事を。それを「下げ振り」に対して置くと、「おやまあ、逸れている…」「逸れまくっていて、この箇所なんて本当に外れている。」「下げ振り」はここにあります。私の人生はこっちにあって、その「下げ振り」が測る基準になっています。言ってしまうと、無茶苦茶にズレています。では、私はどう応答するでしょう。非難？断じて違います。罪を認める？全くその通りです。これが、私が意味していることで、聖書を、書から書へ、章から章へ、節から節へ、説明しながら教えている時、ここを飛ばして逃げることはできません。皆さん想像してみてください。ある日曜日に私がここに立ちます。この種の文章があります。そして私がこう言います。「ところで、私たちは、テサロニケ第一 2 章の最初の 6 節はスキップしましょう。あまりにも咎められる内容だから。」神の測定の「下げ振り」と義がここ、教会がここ、私の結婚生活がここ、私のミニストリーがここ、私の奉仕がそこ、(逸れて、曲がりくねっている。) 私はまっすぐに整える必要があります。たぶん私は目覚める必要があ

ります。神が、「私が神で、私がそう言っているのだ！」と仰るからではありません。神が仰っているのは、「聞きなさい。」「あなた自身の為なのだ。」あなたは人のご機嫌取りですって？あなたはこの地球上で最も惨めなご機嫌取りになるでしょう。なぜならあなたは、決して人々を喜ばせることはないからです。皆さんも、この言い回しを聞いたことがありますよね。「他人を見ていると私は苦しみ、自分自身を見ていると私は落ち込む。でもイエスを見れば、私は祝福される。」すごくダサイのは分かっていますが、それがまさに真実ですよ？神は、私たちの最善を願っておられます。私たちは本当に祝福されているのです。神が仰います。「ここに下げ振りがある。」「あなたが私の下げ振りに沿う度合いに応じて、あなたは祝福されるのだ。」「あなたがそれから遠く離れて行けば行くほど、あるいは、離れていればいるほど、あなた自身が危険になるのだ。」私が次のように言ったら、分かりきった事に聞こえますでしょうか？神はみなさんの結婚生活を祝福したいと思われている、と。当然の分かりきった事に、聞こえますよね。神は心からあなたに最大の関心を持っておられます。かなり率直に言うと、彼はそうしなければなりません。なぜなら、結婚は、永遠の図式の縮図だからです。それは、私たちイエス・キリストの花嫁と、花婿イエス・キリストとの結婚を描写し、表しているからです。それが、サタンが結婚をもの凄く憎む理由です。これは結婚に関する説教ではありません。それはまた別の機会のトピックです。でもそれが、敵が皆さんのクリスチャン結婚生活を憎む理由です。クリスチャン結婚生活が表わす事の故にです。敵は、クリスチャン結婚生活だけではなく、クリスチャンの教会を憎んでいます。彼は自分に出来る限りのことをするでしょう。その教会にうまく入り込むために。彼は教会に加わって、その教会のメンバーになります。突飛

なことのように聞こえるかもしれませんが、それが敵のやり方です。大変巧妙です。彼は、その教会を、結婚生活を、そのクリスチャンを、出来るだけ、神の「下げ振り」から遠ざけようとするのです。今できている、その成果を見てください。私は締めくくりに、祈ります。聖霊が、私たちの心を調べてくださり、私たちの動機を調べてくださる事を祈ります。そして、それが神の義の下げ振りと一致しているかを見るのです。祈りましょう。

お父様。ありがとうございます。厳しい教えです。でも良いものです。厳しい御言葉。でもあなたの御言葉です。あなたの身体とあなたの血潮についての厳しい教えの後の弟子たちのことを私は考えます。どのように群衆が、あなたから離れ去ったかを。その後、ペテロがあなたに尋ねます。いえ、あなたがペテロに尋ねられます。

「あなたがたも離れて行きたいのですか？」(ヨハネ 6 : 67)

ペテロの返答は、

「主よ、私たちはだれのところに行きましょうか。」(ヨハネ 6 : 68)

あなただけです。厳しい御言葉ですが、あなただけが御言葉の真理を持っておられます。これが真理です。主よ。あなたの御言葉の真理をありがとうございます。私は、それがあなたの民である私たちの人生に、必要な影響をもたらすことを祈ります。そして、あなたの教会として、この教会の生き方にも。

イエスの御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii 筆記 Rumiko